1. 開催概要

展覧会名	国立トレチャコフ美術館所蔵　レーピン展	
開催施設名	会期	入場者数
Bunkamura　ザ・ミュージアム	2012 年 8 月 4 日～10 月 8 日	43,452 人
浜松市美術館	2012 年 10 月 16 日～12 月 24 日	21,980 人
姫路市立美術館	2013 年 2 月 16 日～3 月 30 日	14,292 人
神奈川県立近代美術館　葉山	2013 年 4 月 6 日～5 月 26 日	8,700 人

● 開催概要

1　展覧会内容と評価

本展覧会は、リアリズムの旗手として活躍したロシア近代絵画を代表するイリヤ・レーピンの、過去最大の日本巡回回顧展として企画開催された。レーピンはその優れた観察力と卓越した描画技術によって社会や人物を活写して、写実主義を極めた作家であり、本展覧会は彼の画業の初期から晩年に至る肖像画や歴史画、また家族など身近な人々を描いた作品など様々なジャンルの油彩 58 点、水彩・素描 41 点、合計 99 点によって構成された展覧会となった（水彩素描は作品保護のために前期会場・後期会場と展示替えを行っている）。 本展はロシア美術の最大級のコレクションを誇る国立トレチャコフ美術館の全面的な協力により開催され、国立ロシア美術館と並ぶレーピン作品のコレクションから、《思いがけなく》、《皇女ソフィア》、《ムソルグスキーの肖像》など、彼の代表作であるばかりでなく、ロシア美術史上の主要作品を含めて構成することができた。また、出品作品の多くが日本初出品であるという点でも、注目を集めた。

画家レーピンは欧米での高い知名度に比べ、今日の日本では忘れられた存在であり、残念ながら入場者数の目標達成には至らなかったが、このような海外での知名度に比べて日本では知られていない芸術を紹介普及することに、美術館活動の一つの意義があると信じる。事実、新聞、雑誌、テレビなど多くのメディアで、価値のある注目の展覧会として紹介された。また、来館者がブログや SNS に数多く掲載したことから、各会場の会期中に次第に入場者数が増える傾向にあり、そこに来館者の満足度の高さが窺える。

2 入場者数

【Bunkamura　ザ・ミュージアム】 43,452 人（当初目標 80,000 人　 達成率 54.0%）

オリンピック開催時期、及び昨夏の猛暑の影響もあり、出足が鈍く苦戦したが、来館者の滞在時間も長く熱心に鑑賞する人が多かった。他展覧会と比べ男性客も多く、また、会期中に複数回来館する方も目立った。また、何よりも、アンケートでの展覧会の満足度が非常に高く 9 割以上の方が非常に満足をされたという歴代開催の展覧会でもトップを争う好評価の展覧会となった。

2008 年「青春のロシア・アヴァンギャルド」展、2009 年「トレチャコフ美術館展　忘れえぬロシア」に次ぐロシア美術を紹介する貴重な機会として、また、2007 年「アンカー展」、2008 年「ジョン・エヴァレット・ミレイ展」等の写実的な絵画に対する来館者の興味の深さにこたえる形としても、当館での実施は大きな意義があった。

＜主な新聞掲載記事＞

2012 年 8 月 14 日毎日新聞「美術　リアリズムの底力見せる」

2012 年 8 月 22 日朝日新聞「皇女ソフィア　憤怒の形相なのは」

2012 年 8 月 22 日新聞之新聞　平野裕氏（元毎日新聞社専務）による美術評

2012 年 8 月 24 日東京新聞「巨匠の技法吸収、見事な写実」（宮下規久朗神戸大准教授）

2012 年 9 月 9 日 THE JAPAN TIMES「Reading between the lines of realism」

2012 年 9 月 9 日産經新聞「絵筆が語る人間ドラマ」

2012 年 9 月 21 日週刊ポスト「坪内祐三の美術批評　眼は行動する一超絶的に精緻なレーピンのロシアン・リアリズム」

2012 年 9 月 23 日 SANKEI EXPRESS「アートクルーズ　絵筆に込められた人間ドラマ」

2012 年 9 月 26 日日本経済新聞「品位と生々しい現実共存」

2012 年 9 月 27 日読売新聞「人間への透徹した目」

2012 年 11 月号文藝春秋「中野京子の名画が語る西洋史」　・・・など

その他週刊誌、月刊誌など多数掲載。

【浜松市美術館】 21,980 人 （当初目標　30,000 人　達成率 73.2%）

会期が 2 ヶ月と長期にわたるため、入場者の中だるみを懸念したが、会期を通して堅調に推移した。アンケートも高評価を頂き、通常の展覧会を超えるリピーターが見受けられた。また、浜松市内の小中学校へ教育特別優待券を配布することで、子どもたちも多く来館した。会期終了後も展覧会に関する問い合わせが多く、全国的に展覧会の認知度が高まっていることを感じた。

＜主な新聞掲載記事＞

2012 年 8 月 29 日毎日新聞朝刊 「近代ロシアの巨匠レーピ展」

2012 年 10 月 14 日中日新聞朝刊「ロシアの至宝　浜松へ」作家・ドイツ文学者　中野京子氏

2012 年 10 月 19 日中日新聞夕刊 「確かな技法　見事な写実」神戸大学准教授宮下規久朗氏

2012 年 11 月 22 日中日新聞朝刊 「家族にそそぐ愛」 浜松市美術館館長中村邦明氏

2012 年 11 月 30 日中日新聞朝刊「内面へ　深く　鋭く」　・・・など

その他雑誌ブログなどに多数掲載。

【姫路市立美術館】 14,292 人 （当初目標　30,000 人　達成率　47.6%）

開催時期が寒期であり、例年は客足が鈍る時期であることを考えると、入場者数は多かったというのが実感である。イベントはすべて満員、あるいはそれに近い数字であり、参加を断らざるを得ないケースもあった。図録の売れ行きなどもよく、アンケートから、来館者の満足度も高かったことがわかる。惜しむらくは、他会場に比べて会期が短かったことであろうか。

＜主な新聞掲載記事＞

2013 年 2 月 15 日,16 日,24 日神戸新聞　来日クーリエインタビュー記事や中野京子氏の講演会記事を掲載

2013 年 2 月 22 日産經新聞「美と遊ぶ　社会の現実見つめ続けて」

2013 年 3 月 6 日　毎日新聞「アートのトリセツ　移動派」

2013 年 3 月 12 日神戸新聞「激動のロシア　凝縮した傑作」

2013 年 3 月 14 日朝日新聞「新審美眼 59『皇女ソフィヤ』あらがえぬものへの憤怒」

2013 年 3 月 15 日産經新聞「欲望の美術史 23 秘められた体制批判」　・・・など

【神奈川県立近代美術館　葉山】　8,700 人 （当初目標　30,000 人　達成率　29.0%）

本展覧会は、Bunkamura ザ・ミュージアムという同一鉄道線（JR湘南新宿ライン）上にある近隣美術館との巡回という初めての試みであり、来館者数はその影響を強く受けたと分析している。その一例として、同一地方での開催ということから、新聞、雑誌での記事掲載がほとんど得られなかったことが挙げられる。また、アンケートにも、同じ作品をザ・ミュージアムと異なる会場で見ることの面白さについて触れたものが散見され、ザ・ミュージアムで見て、再び葉山で見るという「リピーター」が少なくなかったことを窺わせる。アンケートの評価はきわめて良好で、今後も同様の展覧会を開催して欲しいという要望も多く、上記のような広報の困難さがあったものの、講演会等の参加率も高かった。

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

1 展示作品の質・量の充実

① 欧米できわめて高く評価されているにも関わらず、日本国民が実際に目にする機会が少ないレーピン作品を、その代表作も含めて、国立トレチャコフ美術館の全面的な協力により数多く借用することができた。

② 高額な保険料のかかる《長輔祭》《皇女ソフィア》《作曲家ムソルグスキーの肖像》《思いがけず》といった重要作品も展示することができ、レーピンの活動をあますことなく紹介できる充実の展覧会となった。

③ 都内だけでなく、地方公立美術館に巡回させることができ、レーピンの作品のみならず、それが描き出す歴史や文化についても日本国民が広く触れる機会を作ることができた。

2 教育普及活動の充実

【Bunkamura ザ・ミュージアム】

①展覧会ガイドブックプレゼント

夏休み期間ということもあり、子ども向けのレーピン展解説ガイドブックを作成し、クイズ形式で作品の時代背景などが理解できるように冊子を作成。イラストは絵本作家立本倫子さんに依頼して作成していただいた展覧会オリジナルキャラクターのクマ親子を登場させて親しみやすいものとなった。

②マトリョーシカ絵付けワークショップ開催（8 月 19 日　15 組 30 名）
絵本作家立本倫子さんを講師に、親子やペアで楽しめる、白木のマトリョーシカ絵付けワークショップを開催。

③青い日記帳×レーピン展『ブロガー・スペシャルナイト』開催（8 月 21 日　参加者 80 名超　）
山下裕二（明治学院大学教授）×籾山昌夫（神奈川県立近代美術館主任学芸員）”レーピンの魅力を語る”座談会を開催。ナビゲーターには人気美術展覧会ブロガー「青い日記帳」主催の Tak こと中村剛士氏に依頼した。トークの後は特別鑑賞会を開催し、展覧会の感想をブロガーに書いてもらうことで、一般の方への認知を広めるとともに、専門家ではない視点から、展覧会の見所を分かりやすく紹介をしてもらうことで、ロシア美術への理解を深める機会とした。

④展覧会記念講演会 1（8 月 26 日　参加者 57 名）
亀山郁夫氏（ロシア文学者、前東京外国語大学学長）
「神か、リアリズムか？19 世紀ロシアの芸術文化における”救い”の探求」
展示室内にて作品を前にロシア文学者の亀山郁夫氏に、標題の内容で語ってもらった。

⑤展覧会記念講演会 2（9 月 16 日　参加者 59 名）
中野京子氏「怖い絵で読み解くレーピン展」
「皇女ソフィア」など出品作品にまつわる話をしてもらい、レーピン作品やロシアに関しての理解と興味を一層深める講演会となった。

⑥『ロシア音楽でたどるレーピン展』N 響メンバーによるカルテット～ムソルグスキー、チャイコフスキーほか～（9 月 23 日　70 名超）
チャイコフスキーやボロディン、ムソルグスキーといったレーピンと関わりの深い音楽家達が作曲した音楽を展示室内で 1 時間程度演奏し、その後は、余韻に浸りながら作品鑑賞をしてもらった。

⑦ギャラリートーク（8 月 3 日　参加者　報道関係者を中心に約 50 名参加）
トレチャコフ美術館学芸員のスヴェトラーナ・カプィリナ氏による作品解説を実施。

⑧初日プレゼント
初日先着 100 名様に展覧会オリジナルキャラクター「トレちゃん・チャコちゃん・コフちゃん」のミニクリアファイルをプレゼント

⑨ポスタープレゼントキャンペーン（9 月 24 日～28 日）
レーピン展の図録をお求めの方に先着 50 名様に「レーピン」展のポスタープレゼントを実施。

【浜松市美術館】

①ミュージアムコンサート（10 月 21 日　参加者約 180 名）

2 回公演。ムソルグスキーの展覧会の絵などを浜松在住の若手ピアニストが演奏。

②中日レディーズサロン中野京子先生講演会（11 月 1 日参加者約 150 名）

「皇女ソフィア」や「ゴーゴリの自殺」などの作品についての解説や、当時の様々なエピソードをお話してもらった。

③籾山昌夫氏講演会（11 月 3 日　参加者約 80 名）

神奈川県立近代美術館の主任学芸員である籾山氏にロシア・リアリズムの特徴とその代表的な画家レーピンの作品についての話をしてもらった。

④テルミン・マトリョミンコンサート（11 月 24 日　参加者約 120 名）

ロシア生まれの世界最古の電子楽器「テルミン」とマトリョーシカを融合した楽器「マトリョミン」を使って「ひばり」や「モスクワ郊外の夕べ」といったロシア音楽などを奏でるコンサート。2 回公演。

⑤学校鑑賞会

豊橋市立南部中学校分散学習（11 月 13 日　参加者 20 名）

東小学校 3 年生鑑賞会（11 月 29 日　参加者　56 名）

中部中学校 1 年生鑑賞会（11 月 28 日　参加者 82 名）

北小学校 6 年生鑑賞会（11 月 30 日　参加者 46 名）

中部中学校 2 年生鑑賞会（12 月 5 日　参加者 86 名）

中部中学校 3 年生鑑賞会（12 月 12 日　参加者 80 名）

鴨江小学校 6 年生鑑賞会（12 月 14 日　参加者 67 名）

雄踏中学校美術部鑑賞会（12 月 21 日　参加者 20 名）

北小学校 4 年生鑑賞会（12 月 20 日　参加者 40 名）

沢山の感想レポートが送られてきました。以下、抜粋。

「初めて美術館にきました。細かな部分迄描かれていて、絵がまるで写真のようでした。」

「特に魅せられたのは、背の曲がった男という絵です。落ちついた色づかいで、男のブロンドの髪と深緑色のローブ、そして肌の色とがお互いを引き立て合い調和しているのには、感嘆せざるをえませんでした。」

「レーピンは、多くの肖像画を描いていることを知りました。

一番印象に残っている絵は、ピアニストを描いた絵です。彼女は自分の美しさに気付いていたようで、その自信に満ちた顔がよく描かれていると思いました。」

「一番心に刺さったというか、何か伝わるものがあったのは、ゴーゴリの自殺です。この狂気的な絵にはレーピン自身も苦悩を重ねていると聞き、ゴーゴリを押さえていた人は、レーピンの中でも必死で何かを押さえていたのかなと思いました。」といった感想が見られました。

⑥ギャラリートーク（10 月 19 日、10 月 26 日、11 月 2 日、11 月 9 日、11 月 16 日、11 月 23 日、11 月 30 日、12 月 7 日、12 月 14 日、12 月 20 日　参加者数各回 40～50 名）

⑦「マトリョーシカ？アート」（会期中 2F 一部スペースにて実施）

マトリョーシカの下絵を用意しておき、そこに参加者が思い思いの柄や色づけをするという参加型のワークショップ。完成作品は、壁に展示をした。

⑧ワークショップ「もうすぐクリスマス！みんなでアート・ツリーをつくろう」（12 月 9 日　参加者 30 名）

美術館に飾るクリスマスツリーを 4 歳から中学生迄が参加し一緒にクリスマスの飾りを作りました。

⑨ワークショップ「マトリョーシカのストラップ作り」（11 月 4 日　参加者 33 名）

羊毛フェルトを使ってマトリョーシカのマスコットストラップを 1 人 1 個 2 時間かけて作りました。約 30 名が参加。

⑩「レーピン展作品鑑賞ワークシート」

HP 上に掲載し、子供達にもレーピンや作品、ロシアに関してより知識を深められるようなクイズ形式のワークシートを作成して配布。

⑪ワークショップ「マトリョーシカに絵付けをして、自分だけのオリジナルマトリョーシカを作ろう」

（10 月 27・28 日　参加者 53 名）

白木のマトリョーシカに思い思いの柄や絵付けをして自分だけのマトリョーシカを作っていただきました。

【姫路市立美術館】

①ロシアの電子楽器「テルミン・マトリョミン」コンサート（3 月 2 日　各回 80 名））

2 回公演

幻の電子楽器テルミンによる演奏会を第一人者でもある竹内正実氏をはじめとしたアンサンブルの方々をお招きしてのコンサート。

「モスクワ郊外の夕べ」「ともしび」などを演奏していただきました。

初めてこの楽器をご覧になる方も多く、購入された方もいらっしゃるなど、ロシア文化を体験していただく良い機会となりました。

②籾山昌夫氏講演会「イリヤ・レーピンの絵を読み解く−1870～80 年代の歴史画と風俗画」

（3 月 3 日　定員 100 名））

神奈川県立近代美術館の主任学芸員である籾山氏に、1870 年代から 1880 年代のレーピンの代表作の話をしていただきました。

③ギャラリートーク（3 月 9 日　定員 20 名）

④子どもギャラリーツアー「『うつくしい絵』と『こわい絵』」（各定員 20 名）

学芸員がガイドとなり、小学校低学年は 3 月 16 日、小学校高学年は 3 月 23 日と分けて開催。

カプセルトイを使ってクイズ形式にした体験型鑑賞会。

クイズをみんなで解きながら絵を鑑賞するというもので、大人も参加可能。

⑤中野京子先生講演会（2 月 23 日　参加者満席 100 名）
「絵の読み方―レーピンを中心に」として、本展覧会出品作品をふくめ、様々なお話をしていただき、レーピンだけでなく、ロシア美術、絵画を鑑賞するということに関して幅広く興味を持っていただき、講演後も絵画鑑賞に関する書籍を購入して帰られる方も多く、評価の高い講演会となりました。

⑥子ども向けまんがワークシート作成
出品作品の中から代表的な作品をピックアップし、まんが仕立てで絵の意味をひもとけるようなワークシートを作成して配布し、美術館、及び馴染みの少ないロシア美術に興味を持って接してもらえるように工夫しました。

【神奈川県立近代美術館 葉山】

①オープニング・トーク （4 月 6 日　75 名）
タチヤナ・カルポワ氏（国立トレチャコフ美術館　キュレーター）による作品解説を展示室内で開催した。

②記念講演会「甦るレーピン――移動派の現代性」（4 月 21 日　27 名）
鴻野わか菜氏（千葉大学准教授）に、ご専門の現代ロシア文学・文化と絡めてレーピンの話をして頂いた。

③記念講演会「イリヤ・レーピンの絵画の特質について」（5 月 18 日　72 名）
本展覧会担当学芸員籾山昌夫氏（当館主任学芸員）による講演を開催。レーピン作品に見られる絵画の伝統からの引用について述べた。

④担当学芸員によるギャラリートーク（4 月 9 日　21 名）

⑤担当学芸員によるギャラリートーク（5 月 19 日　42 名）

⑥先生のための特別鑑賞の時間（5 月 25 日　9 名）
現場の教育活動に反映していただく為に、教育活動に従事されている先生方を対象とした鑑賞会。
鑑賞の為のアイデア、鑑賞活動に関する相談を受付、学芸員による解説、美術館を利用した授業の事例紹介などを実施。

⑦第 21 回葉山芸術祭参加
地元市民の手で作られている「葉山芸術祭」（4 月 20 日～5 月 12 日）に参加。
4 月 25 日に「葉山アートガイドツアー」の一つとして担当学芸員によるミニ講演会を開催（参加者 4 名）。

3. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

会期を通して、万全の体制で輸送・展示作業を行い、展示・撤収作業に関しても、作品の保全を第一に考慮したことで、一貫して安全に作業が行われた。

会期中は警備・監視要員を十分に配置するようにしたため事故は無かった。また、神奈川県立近代美術館 葉山にて 2013 年 5 月 20 日に空調切り替え時の調整ミスから、一時的に展示室の温湿度が正常値を外れる事態となったが、その後、修復家の大原氏、及び国立トレチャコフ美術館職員の立ち会いの下、作品点検を行い、作品の状態に変化がないことを確認した。

4. 安全配慮に関する特別の対応

輸送・展示作業に関しては、余裕ある日程と作業員構成を組み、航空輸送には国立トレチャコフ美術館スタッフが同乗し、各会場における展示・撤収作業においては、修復専門家、日本側学芸員および、国立トレチャコフ美術館学芸員の立ち会いのもと、入念な作品点検を行った。

各美術館においても、監視・警備員配置を 24 時間態勢で整えた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

1 欧米ではロシア近代絵画の巨匠として評価が高いにも関わらず、現在の日本では紹介の機会が少ないイリヤ・レーピンの作品を、政府補償制度の枠組みのもと、展覧会を実現できたことで日本国人に対して貴重な鑑賞機会を提供できたと考えている。また、出品作品の多くが日本初出品であり、その生涯を辿る過去最大のレーピンの日本巡回顧展となったことは 意義深く、観覧者の満足度も高いものとなった。国民がレーピン作品のみならず、ロシアの歴史や文化にも触れる良い機会にもなり、その意味で「広く国民に優れた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の目的を達成したと考える。

2 補償制度適用の事実については、本展図録及び看板、チラシなどの広報物に掲載した。（ただし第 1 会場の Bunkamura に関しては広報物制作に本制度の認可が間に合わず、一部その適応を掲載していないものもある。）また、各会場の HP にもその旨を記載し、周知に努めた。

3 画家レーピンの認知度が高くないことから、「レーピン展」という展覧会タイトルだけでは展覧会のイメージを伝え難かったと思われる。来館者数が伸び悩んだ理由の一つでもあり、多くの国民が展覧会を通じて作品に触れる

機会を創出するためにも、展覧会のネーミングなども今後工夫すべき点がある。

4 会期中の関連イベントについては大変に好評であった。特に、講演会や音楽コンサートなどは参加者も多く、美術鑑賞以外の付加価値が求められていると感じた。

5 展覧会告知方法として、ブログ、ツィッター、Facebook などのメディアの有効性も感じた。従来の新聞、テレビといった主要メディアに加えて、今後はインターネット上での告知により、若年層を含むより多くの来館者層を取り組むことができると思われる。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名　Bunkamura ザ・ミュージアム、株式会社アートインプレッション

●収入

区分	決算額
	万円
展覧会収入・その他収入	4,913
共催者負担	3,611
収入総額	8,524

●支出

区分	決算額
	万円
企画準備等基本経費	3,570
設営・運営等会場関係経費	4,954
支出総額	8,524

主催者名　浜松市美術館、株式会社アートインプレッション

●収入

区分	決算額
	万円
展覧会収入・その他収入	1,932
共催者負担	562
収入総額	2,494

●支出

区分	決算額
	万円
企画準備等基本経費	1,576
設営・運営等会場関係経費	918
支出総額	2,494

主催者名　姫路市立美術館、株式会社アートインプレッション

●収入

区分	決算額
	万円
展覧会収入・その他収入	914
共催者負担	628
収入総額	1,542

●支出

区分	決算額
	万円
企画準備等基本経費	1,065
設営・運営等会場関係経費	477
支出総額	1,542

主催者名　神奈川県立近代美術館 葉山、株式会社アートインプレッション

●収入

区分	決算額
	万円
展覧会収入・その他収入	666
共催者負担	1,399
収入総額	2,065

●支出

区分	決算額
	万円
企画準備等基本経費	1,446
設営・運営等会場関係経費	619
支出総額	2,065